

ローカルメーリングリストと 感染症ローカルサーベイランス

第12回日本外来小児科学会総会
於：名古屋国際会議場
平成14年8月31日~9月1日

小児科月一会メールグループ（石川県）

- 渡部礼二(医)、岡本正樹(医)、加藤彰一(医)、加畑寿明(医)
- 齊藤建二(医)、清酒外文(医)、中村英夫(医)、西田直巳(医)
- 正木克治(医)、松田 明(医)、宮森千明(医)、武藤一彦(医)
- 横井 透(医) 他

「利家とまつ」の加賀・百万石の石川県から参
りました。

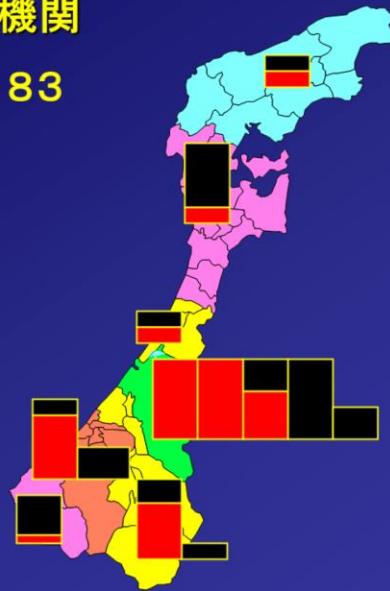
ML参加小児科医療機関

41 / 83

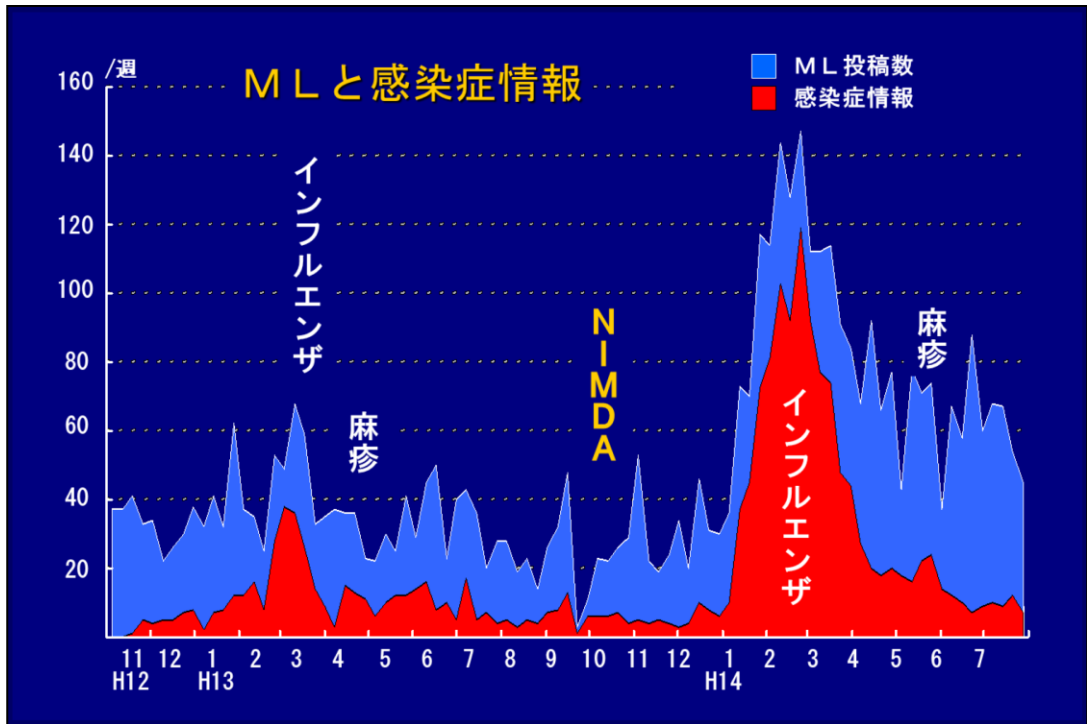
■ ML参加

■ ML非参加

┆ 10小児科医療機関



スライドは／石川県内／保健所管轄別の小児科医療機関を表しています。県内全てであります。大きい四角1つが10の小児科の医療機関であります。その内、赤色が我々メンバーのいる医療機関であります。全体で約半数の小児科医療機関が参加していますが、特に南の方／いわゆる加賀地方を中心とした小児科医の間で／情報交換をしています。



メーリングリストでは感染症情報も積極的に集めています。この縦軸が1週間のメール数であります。赤い色の部分はその内の感染症の報告等／感染症サーベイ関連のメール数であります。ここはインフルエンザの流行した頃であります。ここらへんに「はしか」の流行がありました。この凹っこみは同じ感染症でもサーバーへのコンピューターウイルスの感染であります。

金沢南地区:すずらん保育園1才♂(5/24発症 *5/27 No3927)・B兄弟、VF
9ヶ月♀(5/10発症 5/13診断 No3793)・B兄弟
:ヤクルト保育室(西センター)
11ヶ月♂(上荒屋)(5/18発症 5/23診断 No3888)
1才♂(矢木)(5/14発症 5/17診断 No3824)
:扇台小5年♀(5/21発症 5/23診断 No3883)・予未
5年3組♀(5/18発症 5/22診断 No3878)
:緑小5年♀(5/16発症 5/20診断 No3848)・予未、5/6サティで
:三和小1年2組♀(上荒屋)(5/20発症 5/23診断 No3888)・予未
5年3組♂(5/18発症 5/21診断 No3860)・予未
5年3組(5/17発症 5/20診断 No3886)
5年1組♀(矢木)(5/12発症 5/13診断 No3779)・予未

[kinders:03955] ☆キンダース感染症情報 No.02-22(02/06/03)

それら感染症の個々の報告を／地区ごとに小学校や保育所単位にまとめ、週に1回メールで配信しています。これはその週報の「はしか」の項の一部であります。施設名、年齢、発症した日、診断日等の情報で二次感染者の発生日が予測できます。

実際、個々のメールや週報が有用であった例を紹介いたします。

本日当直の堀田です。

渡部先生と同じ大野町保育園児（1歳2ヶ月）。

4月8日 初診し、上気道炎として処方。

「このかぜが治ったら麻疹の予防接種しましょう」と言っていた児。

13日 AM3:00 受診。発疹とコプリックあり。
麻疹でした。

金石近辺流行しそうです。

4/13 [kinders : 00921] 麻疹です

昨年私の所で数年ぶりに「はしか」の児を診断しました。自信がなかったので／診療を終えた後に「疑い」として／メールで流しました。その深夜帯に、メンバーの1人が当直の病院で／
「同じ保育園に通っている児を／「はしか」と診断した」というメールであります。私の報告がそのメンバーにとって／診断に役立った様ですし、このメールで／私も「はしか」の確信を持てたという次第であります。これらは昨年金沢市内での最初の「はしか」の症例でありました。

渡部です。

> 本日ついに当院でも麻疹が出てしまいました。

の中村先生のメールで、

受付に「金沢おしの保育園児で、麻疹の予防注射(-)で、
発熱して受診の子は隔離室へ」と職員向けに貼っておいたら。

金沢南地区(八日市):金沢おしの保育園(すみれ組)の3才みが
14日に受診。当初より隔離。

一応可能性を話をして16日再診してもらってもKoplikハッキリせず。

今日(6/18)発疹(+)。Koplik(+)

中村先生情報有難う。うちでの**2次感染の可能性はゼロ**です。

6/18 [kinders:01236] Re: ついに当院でも...

私の近所のメンバーから、ある保育所で「はしか」が発生というメールがありました。それ以来私の所では、「はしか」のワクチンが未接種の場合／熱発しているそこの保育園児は／待合室に入る段階で隔離。熱が続く時には／昼休み時間等に来院させ／診察をしていました。

その報告の発症日から10日後にVIP待遇で診察されていたそこの保育園児が/その4日後(あと)の昼の診察で/Koplikと発疹があり／麻疹と診断したという私の報告メールであります。メールでの情報が／待合室

での2次感染を予防する事が出来ました。

私は時間的に隔離しましたが、駐車場の車の中へ出向き／診察をしているメンバーもいました。

なお／石川県では本年6月から、大人も含めた全数の「はしか」に対し、メールやFaxを用いて／「麻疹迅速把握事業」が実施されました。年齢、性、施設名、発症日、診断日、ワクチンの有無、感染源などが／報告した日か翌日に／医師会員に対して公表されます。我々のメーリングリストよりも広い範囲からの情報が得られる様になりました。

施設名	区域	2/23	2/24	2/25	2/26	2/27	2/28	3/1	3/2	3/3
		土	日	月	火	水	木	金	土	日
額小	金沢南		1				1		2	
野町小	金沢南	1	1	2				1		
三馬小	金沢南	3	1	1		1		1	1	
緑小	金沢南	1			1					
三和小	金沢南							1		
米泉小	金沢南			1	1	3	1	1		1
米丸小	金沢南	1	1			1	1	1	3	
安原小	金沢南								1	
泉中	金沢南								1	
清泉中	金沢南				1		1			
西南部中	金沢南				1				1	
高尾台中	金沢南						1			
野田中	金沢南						1			
二水高	金沢南					1				
粟田保育園	野々市	1						1		
扇ヶ丘幼稚園	野々市				1					
青竜第二幼稚	野々市							1		
つばき保育園	野々市			1					1	
中央保育園	野々市				1			1		

インフルエンザであります。今年の冬、メール上では保育所や学校等、約450の施設で／3,000例弱の確認されたインフルエンザが／メールで報告されました。余りにも多くの報告があったので／その施設毎の発生数をExcelでまとめ、メーリングリストのホームページに掲載いたしました。週に2～3回それを更新しました。スライドはそのほんの一部であります。メンバーはそれをプリントアウトしたり、ダウンロードしていた様であります。診断日で表しています。表の横軸は診断日で、縦軸は学校等、施設名です

1) 1才女児、小松市河田、河田保育所

昨日より39.1度の発熱。咳・鼻あり。ABクイックでAに陽性。
ワクチン未接種。シンメトレル2.5mg/kg処方。

2) 5才男児、辰口町三ツ屋、辰口保育所

今夕より発熱39.0度。ABクイックでAに陽性。ワクチン未接種。
シンメトレル2.5mg/kg処方。

今日の2名は当MLの情報が診断につながりました。
インフルエンザは感染ルートがはっきりしている子は陽性率が
グンと高くなりますからね。当MLの有用性は計り知れないという
ことだと再認識しました。

1/23 [kinders:02235] インフルエンザ報告

家族の発熱を聞き出すように／「どこの保育所？」「どこの学校？」と問診し、そこでのインフルエンザの情報があるという事は／診断に大きなヒントを与えてくれましたし、事実インフルエンザの診断率も高くなりました。このメールは今年の流行の初め頃のメンバーからの報告であります。

結 語

ローカルメーリングリストによる
ローカル感染症サーベイランスは
その診断や
院内感染(待合室等での感染)の予防にとって
貴重な情報源であった。

その他のメンバー(県内医療機関)

伊藤 茂、 入道秀樹、上田智子、 上野康尚、太田和秀、大野高史
大浜和憲、 岡本 力、 奥田則彦、 柿沼宏明、笠原善仁、加藤真人
金戸善之、 北谷秀樹、久保 実、 榊原方枝、酒詰 忍、 鈴木祐吉
高橋謙太郎、多賀千之、竹谷良平、 谷口昌史、長沖周也、長沖 武
半井孝幸、 南部 澄、 野村隆子、 橋本浩之、蓮井正樹、林 律子
堀田成紀、 本家一也、丸岡達也、 丸山 繁、 南 聡、 向井幹夫、
村田明聡、 村田祐一、野崎外茂次、山上正彦、吉田均、 和田英男

これらタイムラグのない情報を得ると言う事は
／一見通常の感冒と鑑別できない状況／つ
まり「はしか」のカタル期では／待合室で
の2次感染予防の観点から有用でありまし
たし、インフルエンザにとっては／診断の
有力な武器となりました。

以上、ローカルメーリングリストとその感染
症サーベイランスの有用性について報告いたし
ました。

スライド有り難うございました。

抄録

石川県内小児科医療機関の約4割が参加している小児科医の間でメーリングリストを用いて情報交換をしている。そのメーリングリストでは感染症情報を積極的に集め感染症サーベイランスも行ない、個々の報告を地域、施設別にまとめた週報も配信し診療に大いに役立っている。

昨年石川県内で麻疹が流行した時、メール上でのタイムラグのない麻疹の施設発生情報はその診断の助けになった。またその施設発生情報は他の疾患と鑑別の出来ない麻疹のカタル期からその疑いの児を隔離する事が出来、院内感染(待合室での感染)をも予防できた。なお、石川県では本年6月より麻疹に関して全数麻疹迅速把握が県の事業として実施され、その情報は翌日には医師会員に公表される様になっている。

今冬流行したインフルエンザでは、メンバーからの報告数が膨大でありそのインフルエンザの報告を、地域別の小学校等施設毎の経時的な表を作成しHPに掲載し逐次更新した。メンバーはメールとその表から各施設・地区でのインフルエンザの流行状況を把握する事ができた。

問診で家族の発熱を聞くと同時に通っている学校等の施設名を聞き、その施設にインフルエンザが発生していることが分かっていた場合は診断の大きなヒントになった。

このようにタイムラグのない施設名を含めた感染症情報は、感冒と区別のつかない麻疹のカタル期での待合室に於ける2次感染予防にきわめて有用であり、また麻疹も含めてインフルエンザでは診断に大いに役立った。

これらローカルメーリングリストを使つてのリアルタイムな情報は、診察室での問診の仕方をも変え、診断への有力な武器となった。